

OECD開発センター理事会第6回ハイレベル会合  
共同議長サマリー  
(ポイント)

OECD開発センター理事会第6回ハイレベル会合は、2020年10月6日に日本、パラグアイ、セネガル、スペインの共同議長の下で「強靱な復興とコロナ後に向けた開発課題」をテーマに開催された。

出席者は、復興に向けて、連帯と人間の安全保障の理念を維持する必要性や危機による長期的な影響への対応の緊急性を強調した。共同議長は、今回の議論を以下の点として纏める。

- 強靱な復興はグローバルなものでなければならない。今後の開発は共同責任に基づく強靱性と包摂性への投資であるべき。
- 主に非正規労働者のための保健・社会的保護システムの強化は世界的な優先課題であり、復興における女性の役割の重要性を認識しつつ行うべき。
- 革新的資金調達(特別引出権の発行、永久債、財政ファイナンス、債務再構成等)も検討の余地あり。
- 復興以降においては債務持続可能性が重要な役割を果たす。
- 生産体制の強靱化は復興の一部。事業の展開による雇用の創出、生産の多様化や産業化の促進、国際的なスタンダードに則った質の高いインフラのための政策は、経済の強靱化、途上国の脆弱性の緩和のために必要。
- 各国政府は、この危機を契機として、国家開発戦略について再考し、政策の整合性や質を改善すべき。

2020年10月28-29日に開催されるOECD閣僚理事会に報告するためのOECD開発関係部局間の連携や貢献を歓迎。

(了)